

理想的な枚方支援学校

福祉委員会 吉川和信

枚方支援学校児童・生徒数

2017年5月1日現在

小学部	小1	小2	小3	小4	小5	小6	合計
児童数	19	19	14	12	13	13	90
中学部	中1	中2	中3	合計			
生徒数	44	39	38	121			
高等部	高1	高2	高3	合計			
生徒数	55	40	46	141			

校長	教頭	教職員	校医等	事務職	合計
1	2	171	6	5	185

※支援学校は 小中高 一貫校です

WHOの学校規模基準 (2013年3月9日)

・大規模な機関においては回避することができない規則
および規制を回避するためには、教育機関は小さくなく
てはならない——カーティス報告が提案した
生徒100人を上回らない規模——
という点で意見が一致している。

・非人格的な規則ではなく、人間的な関係に基づいた
インフォーマルで個性的な教育は、こうした条件のもとで初めて可能
になる。

集団の規模に関しても意見の相違はまったくな
く、**小さな規模を保たなければならない**という
考え方で完全に一致している。

理想的な支援学校

- WHOの基準は 1校100名以下
- 枚方支援学校 小学部は 90名

※ 支援学校は WHOの理想

- 文部科学省基準(小学校)
12~18クラス 30~40人/クラス
最小 400名 最大 600名

**※ 文部科学省基準は
WHO基準から大きく離れている**

枚方支援学校の実態

- 児童・生徒数が少ない(小規模校)問題点
運動会 学習発表での 大きな問題点は
現時点では無い
- 支援学校は1979年に義務化
されて依頼培われたノウハウで運営
しているの、いろんな工夫はされている
- 少人数教育での利点を活かした教育が実施
されている

「ともに学び、ともに育つ」大阪府の取り組み

- 大阪が全国に先駆けて取り組んできた「ともに学び、ともに育つ」教育を一層発展させていくためには、支援教育をめぐる国の動きに注視するとともに、すべての子どもの学びと育ちを支える「授業づくり」や「集団づくり」が必要です。
- 障がいのある子どもたちにとって必要な支援は、すべての子どもたちにとっても効果的な支援となることから、ユニバーサルデザインの観点を取り入れた「授業づくり」や自尊心や自己有用感を高める「集団づくり」を進め、「ともに学び、ともに育つ」教育の意義をしっかりと共通理解し、一層充実させることが必要です。

「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」について

- 就学前から卒業後にいたるまでの一貫した支援を実現するために、保護者参画のもと、関係機関との連携を図りながら、**教育の分野における支援の計画**（**「個別の教育支援計画」**）が必要とされています。さらにこの「個別の教育支援計画」をふまえ、学校園での**具体的な指導目標や指導内容**を盛り込んだ**「個別の指導計画」**を作成することも大切です。

ある意味 差別では？

- 2つの計画を 特別支援教育だけで行うのはある意味 障がいを持っている人を差別していませんか？

→ **全ての人が平等に教育を受けける権利がある**

- **全ての子どもは 同じではなく 個々に特徴があり、その子にあった 個別の教育や指導が必要ではないのか？**

全員に必要な2つの計画

- 「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」は 障がいを持っている子どもだけのものではなく、全ての子どもに必要な計画です。

この計画を作成し
実施するには
支援学校の規模
(100人規模) でないと
行えない。

本当の学校規模は？

- 個性を活かした教育を行うには
「個別の教育支援計画」・「個別の指導計画」
が必要
- そのためには 1クラス10名以下で
全校児童 100名程度の WHO基準でな
ければいけない

理想的なのは枚方支援学校